
短 編 集

藤堂アリス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編集

【Nコード】

N5926Y

【作者名】

藤堂アリス

【あらすじ】

短編集という名の掌編集

いろんなサイトやmixiで書いた小説というかSSをまとめてみようかなと思っただけー。

うん、結構恥ずかしい。

mixiはキゴゴロの知れた人にしか見せてないしなー

亜樹とまつりとはなびと朝（前書き）

確かこれはmixiで書いたやつでしたね。
数ヶ月前の駄文

亜樹とまつりとはなびと朝

俺の朝は、騒音かボディプレスのどちらかで始まる。

前者の場合は、俺の義姉であるまつり姉が「ほらほら早く起きろ馬鹿義弟ー！」と言いながらお玉でフライパンをガンガン叩きながら起こしてくる。

後者の場合は、義妹のはなびが「お兄ちゃん、朝だよっ！」と言いながらちっこい身体で俺の腹部にフライングしながらのプレスをかましてくる。

ちなみに、今日ははなびの方だった。

制服に着替え、痛む腹を手でさすりながら階段を下り、美味そうな味噌汁の匂いが漂うリビングへ。

「ああ、やつと下りてきたわね。おはよう、亜樹」

「ん、おはようまつり姉」

台所にいる制服にエプロン姿のまつり姉にあいさつ。

うん、マニアックな光景だな。毎朝のことだから見慣れてはいるけど。

「どうしたの？亜樹」

「いや、なんでもないよ。制服エプロンとかなんかやらしいなーとか思ってるじゃないよ」

「思ってるじゃない！」

おおう、バレた。超能力者か。

「別に、超能力者でもなんでもないわよ」

以心伝心!?

「何年一緒にいると思ってるの？ていうか、このくらい当然よ。最初の口に出してたし、あんた、すぐ思ってることが顔に出るもの。」

「顔に出るもの……吹出物か」

「全然違うッ!！」

「お姉ちゃん、朝から叫ぶのは近所迷惑だよ?」

短いツイントールをびよこんと跳ねさせながらリビングにはなびが入ってきた。

髪が湿ってるので、シャワーを浴びて汗でも流してたのかも
しれない。

「え?なに?悪いのわたし?」

まつり姉がなにか言ってるが誰も取り合わない。

「はなび、いつも思うのだがもう少し優しく起こしてくれるとお兄ちゃんも嬉しいぞ」

「えー、だって、お兄ちゃん熟睡してたからあれくらいしないと起きないじゃん。それに、お兄ちゃんに抱きつくこともできるからー
石二鳥だし?」

そういつて、俺の腕を抱え込むはなび。

「あ、こら、はなび! 亜樹に触れると腐るわよ!」

そんなわけない。

「あ、服が腐ってあられもない姿に……」

「マジで!? ラッキー! さあ、はなび! 俺にその素晴らしい未発達
ポディーを見せてくれ!」

「ごめんね、嘘だよお兄ちゃん」

「畜生はなびに騙された! こうなったらまつり姉に責任をとって
らおう! パンツ見せる!」

スカートめくつたらまつり姉にボコボコにされた。痛い。

「うわーん、はなびー。まつり姉がいじめるー」

「よしよし、パンツならあとではなびの見せてあげるから、ね。黒
がいい? 白がいい?」

「いよっしゃー! さすがはなび! マイスウィートシスター! いい年
してクマさんパンツのまつり姉とは違うぜ! 黒でお願いします!」

「亜樹、そろそろ黙らないと殺すから」

はい、わかりました。わかったので熱されたフライパンで叩くのはもう許してください。本当に死にます。

「うっ……ハゲる……」

「あ、亜樹が馬鹿なことばかり言うからでしょうが！」

「だからって、熱したフライパンはやり過ぎだと思っよ？お姉ちゃん」

「ソーダソーダ！メロンソーダ！」

「亜樹、黙れ」

まつり姉に睨まれた。怖過ぎてちょっとちびった。

「まあ、いいけどね……つと、ご馳走様でした」

「あれ？はなび、もう食べ終わったの？」

まつり姉が歯を磨いてるはなびに聞くと、当然のことのようにはなびは言った。

「というか、もうすぐ家出ないと遅刻しちゃうもん」

「……へ？」

只今の時刻は八時三十分。

我が家からはなびの通う中学校までは約五分。

我が家から俺とまつり姉が通っている高校までは約二十分。

ちなみに、ホームルームが始まる時間はどちらも同じ八時四十分。

「お兄ちゃん、お姉ちゃん、遅刻しないようにね？じゃ、行ってきまーす」

はなびの声と同時に玄関の扉が閉まる。

沈黙。

これは、ち……

「遅刻だあああああ！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5926y/>

短 編 集

2011年11月18日04時12分発行